

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成23年3月15日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4672700145
法人名	有限会社 ひまわり苑
事業所名	グループホーム ひまわり
所在地	鹿児島県南九州市川辺町上山田4239番地5 (電話) 0993-58-9038
自己評価作成日	平成22年12月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://kaken-shakyo.jp/kohyo
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成23年2月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の行事があるときは、家族に了解を得て、参加している。できれば、家族も参加していただいている。季節感のあるものを、室内に飾り、外出が思うようにならない人も、季節感を感じていただけるようにしている。
敷地内に畑があり、季節の野菜を無農薬で栽培している。それを利用して、栄養バランスのとれた食事を提供している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭で過ごしているような環境の中で、利用者は安心感とくつろげる雰囲気の中で笑顔の日々を暮らしている。
管理者・職員は利用者への思いや意向を折りにふれて家族に伝えるようにしている。
地域とのつながりに工夫がみられ、ホームに学生がボランティアで来て交流を図ったり、地域行事に利用者と職員と一緒に参加して楽しむなど、利用者が地域の一員として生活している。
職員の提案や意見・思いなどを管理者に気軽に相談でき、職員は相互に意思の疎通を図りいきいきとした職場環境である。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	職員皆で、理念や目的を作り上げている。	理念をパンフレットに掲載したり玄関やホールに掲示し、申し送りやケア時に話し合い、共有しケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	経営者、管理者、半数ぐらいの職員が、近所の人であり、日常的な付き合いがなされている。近所の方が、野菜を持ってきてくださることも多い。災害時にも、協力をお願いしている。	職員の大半が地域住民であり、地域の情報を得て日常的に地域との交流をしている。地域行事のクリスマス会や敬老会・地域保健推進事業講座等に参加している。小中学生の体験学習や運動会・小学生の訪問ボランティア等で交流している。職員は地域住民の介護相談に応じるなど、ホームの特性を活かした地域との交流を行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	来客された方々から、移動の仕方など聞かれたさい実践して教える。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際についての説明や報告を行っている。	行政担当職員や住民代表・家族・利用者・職員等、全員参加で定期的開催している。避難訓練について避難経路・車椅子利用者や居室の確認等・火災原因等が具体的に出席され、貴重な意見をサービスの質向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議にほぼ毎回行政の方の参加があるので、より連携ができるようになってきていると思う。不明な点があるときは、行政の方に相談したり、質問したりして力を借りている。	市の担当者にホームの運営や利用者の暮らしぶり等を報告しながら、助言等をもらい協力関係を築き、共にサービスの質向上に取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	年1回身体拘束・虐待に関する研修を実施している。	職員研修会でテーマを決めて研鑽したり、申し送り時や日々のケアの中で確認し合っている。玄関の施錠は無く、職員の連携で見守りを基本としているため、拘束のない自由な暮らしが保たれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員研修で、虐待について学んでおり、虐待がない様、みんなです話をしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	日常生活自立支援事業を利用している方も入居しており、必要がある場合は、活用できるよう話はしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は、事前に契約書等を渡し読んで頂いた上で、説明をおこなっている。理解納得できたか確認の上で、署名捺印してもらっている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>外部に第三者委員を定めている。ホームでの窓口、外部での窓口を入居時に説明するとともに、ホールに掲示している。</p>	<p>苑便りの送付時や来訪時・個別報告時等に意見や要望を聞いている。マヒのある利用者のリハビリ・冬場の湯たんぼ使用の要請や食事についての要望など、出された意見等は運営に反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>改まるとなかなか意見は出にくくなるが、日常の業務の中や会話の中で、意見や提案を察知し、反映させていくよう努めている。</p>	<p>会議時や日々の業務の中で、意見やアイデアが出されている。利用者の顔写真についての掲示の提案があり利用者に喜ばれている。業務体制・利用者の入退居・資格取得等、職員の意見を運営に反映させている。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>職員の状況を把握し、努力している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>働きながら、資格が取れるよう、勤務調整を行っている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>町内で、グループホーム交流会があり、研修や交流会に参加している。また、迷った事があった時は、連絡を取り、他の事業所の状況などを教えてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	日々の介護の中で声かけし、傾聴していくようにしている。信頼関係を大切に考え、対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の際、要望や不安なこと、分からない事について聞いている。その後も家族の不安、相談を安心して話していただけるよう、関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今までの経緯、現状をゆっくりと話を聞き、本人や家族の希望を優先しつつ、一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者に、昔の事や得意なこと（包丁磨ぎ）など、教えてもらうことも多い、人生の先輩として、スタッフも接している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況を伝える際、一緒に喜んだり、残念がったりしており、家族の状況を考慮しつつも、本人にとって、家族が何より大切な存在であることを伝え、一緒に支えて行けるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から利用している美容室などに希望があれば、一緒に行っている。近くの方は、お友達や近所の方がホームに遊びに来ることもある。	利用者の希望に応じて馴染みの美容室や、墓参りに出かけている。友人や身内の来訪を支援し、馴染みの関係が継続するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、それぞれが繋がるように話をしたり、聞いたりしている。トラブルがおこる前に間に入って話を聞くようにしている。誤解する事もあるので、許容範囲内で状況を話し、誤解を解くようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院になった方には、病院にお見舞いに行ったり、相談にのったりしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	改まるのではなく、日頃の会話の中から、希望や意向を把握するように努めている。言葉で表せない方も、表情やしぐさなどから思いを読み取るように努めている。	本人の表情や言動から推測したり、話しかけたりして意向を把握している。また家族等より情報を得ながら職員で話し合い、利用者の思いに応えられるように検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に、家族や本人から情報を収集するとともに、居宅のケアマネや、病院などから資料提供して頂いている。日々の会話の中から、これまでの暮らし方などを把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録と引継ぎ簿を用いて、申し送りを行い、スタッフ全員が把握するように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族に日頃の会話の中から意見や思いを聞き、ケアプラン作成。その際に、もう一度、説明と希望を聞き、納得いただければサインを貰っている。職員については、申し送りや日頃の会話の中からの意見を参考にし、カンファレンス時に再度意見をきいて作成に至っている。	本人や家族等の要望をもとに職員全員でアセスメントやモニタリングを定期的に行い、個々のニーズを大切にしながらプランが組み込まれ、本人本位の介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中と夜間に分けて、状況を記録して、申し送りを行っている。計画作成担当者は、介護記録も見直しつつ、アセスメントや評価を行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診、医療処置を受けながらの生活の継続、墓参りや外泊、特別な日の外出の支援など、家族の希望や状況に応じて柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に、有識者や地域代表の方、家族代表の方に参加していただき、意見を頂いている。防災については、地域の消防団の方にも協力を依頼している。毎年、小学校からの慰問が恒例行事となり、交流している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人様、ご家族様の希望に添い、在宅時から継続的に医療が受けられるよう支援している。	本人や家族等の希望するかかりつけ医の受診の継続支援を行っている。また協力医療機関との連携体制ができており、受診の支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフの中に2名看護職がおり、気軽に相談でき、健康管理が出来ていると思う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、スタッフが交代で面会に行き、家族、病院と話し合いながら、早期退院に向けて話をしている。医師や看護師、ソーシャルワーカーと連携を取り、状況を把握している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時や終末期については、家族、かかりつけ医と話し合っており、スタッフ間で方針を共有している。	重度化や終末期についてのホームの方針があり明文化している。家族等や主治医・看護師・職員でその都度話し合いがされ、方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り、勉強会後もいつでも見れるところにおいてある。心肺蘇生法や救急手当についても消防署の方からの指導を受けている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の方や地域の消防分団に協力をお願いしている。ホームの見取り図を配布、説明している。避難訓練を実施している。	消防署の指導のもと昼・夜間想定で避難訓練を行っている。地域住民の参加協力もある。また消防分団によるホーム内点検や消火・通報訓練も行っている。通報装置・火災探知機・防火水槽も完備し、災害用備蓄もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉使いなど気をつけ、穏やかな声かけをしている。入社時にスタッフ全員に守秘義務や個人情報取り扱いについて説明し、同意を貰っている。	尊厳に対するケアのあり方を、日々の支援の中で確認し合っている。利用者のプライバシーを損ねないように、さりげない声かけや対応に留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に合わせて説明を行い、選択する場面を設けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせて過ごせるよう配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	着るものを本人様に選んでいただけるようどれが良いか聞く。美容室は本人様の行きつけの店に行く。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、昔ながらの郷土料理などを献立に取り入れている。調理、配膳や片付けは、その方の能力に合わせ、一緒に行っている。スタッフが一人で片付けをすますと、「させてくればよかったのに」と怒られることがある。	利用者の身体状況に合わせた食事形態に配慮したり、時には食べたいものや好きなものの献立を作ったりしている。菜園からの野菜の収穫や獲れたての魚介類の食材を使い、職員と一緒に調理や後かたづけなどを行い食事を楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を記録し、栄養バランスが偏らないよう注意している。食事摂取量は、記録し、水分摂取量も、必要な人に関しては記録、全員についてチェックしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、口腔ケアに努めている。夜間は、義歯洗浄の介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを観察し、声かけしトイレへ案内している。普段尿意が表出できなくてオムツをされる方も、可能な方は昼間はトイレに移乗介助し、排泄を試みている。トイレで排泄できた事を共に喜んでいる。	排泄チェックの記録により、パターンに応じて個別支援をしている。本人の意思を大切にしながら、トイレやポータブルトイレ使用に心がけてオムツ無しのケアに取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維のある食品や水分の摂取を心がけている。毎日、排便チェックをしている。3日以上出していない人には、のの字マッサージをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴状況を考慮しながら、利用者様に声かけし、希望を聞いている。	週2～3回の入浴日を決めているが、一人ひとりの習慣や希望に応じて入浴支援をしている。状況に応じて清拭やシャワー浴なども活用し、利用者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の行動（受診の為外出や作業状況など）に合わせて、疲れ具合を見て、休息を取り入れている。		
47		○服薬支援 一人ひとりを使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬台帳を作成し、変更時書き換え、把握できるようにしている。薬情書をケース記録に綴り、介護職員にも目を通してもらい、勉強会をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食後には食器を片したり、洗濯物干しやたたみ方など、その方に合わせた作業をして頂き、入居者様によっては、自分の仕事だと認識されている方もおり、スタッフが言わなくても、進んで行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気や利用者様の希望、体調を考慮しながら、散歩に誘ったり、ドライブに行ったりしている。	日常的には天気の良い日は施設周辺の散歩を楽しんでいる。ドライブや地域の行事参加・他のグループホーム利用者との交換会・花見・墓参り・イベント見学など、外出の機会作りを工夫して閉じこもらない支援を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>所持金把握した上で、自分で持っている方もおられるが、何処に保管したか忘れ、「失くした」「盗られた」と言う事例があり、金銭の自己管理については、消極的である。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人様の希望があれば、事務所の電話を利用し、電話できるようにダイヤルを押すなどの介助はしている。電話がかかってきたときも、本人様に伝え、取次いでいる。手紙も、必要に応じて代読や代筆などの介助をしている。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>毎朝、夕掃除をして、快適に過ごせるようにしている。季節感を取り入れた飾り付けを行うようにしている。</p>	<p>掃除の行き届いた共用空間は清潔で気持ちが良い。室内は明るく温度に配慮がなされている。神棚や仏壇があり、ゆったりと過ごせるようソファの設置や随所に季節の花や行事の装飾・写真が飾られ、大家族の雰囲気を思わせる共用空間である。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>和室にソファがあって、利用者様同士ゆっくり過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>昔ながらの使い慣れた家具等を入居時に持ってきてもらって、思い思いの部屋にしている。</p>	<p>仏壇・タンス・テレビ・マッサージ機・家族写真など、馴染みの物が持ち込まれている。好みに応じて和室やフロア造りの居室になっており、入り口表示は分かりやすく造花の色分けで確認できるように工夫されて個性的な居室作りとっている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ベッドの高さを調節して、立ち上がりしやすくしている。廊下、トイレ、風呂など手摺がついており、安全になるべく自立した生活ができるよう心がけている。</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)		1 ほぼ全ての職員が
		○	2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない